



飯田市立病院ニュース

飯田市立病院・高松分院広報

編集・発行／飯田市立病院広報編集委員会 〒395-8502 長野県飯田市八幡町438番地
TEL●飯田(0265)21-1255(代) FAX●飯田(0265)21-1266 http://www.imh.iida.nagano.jp/

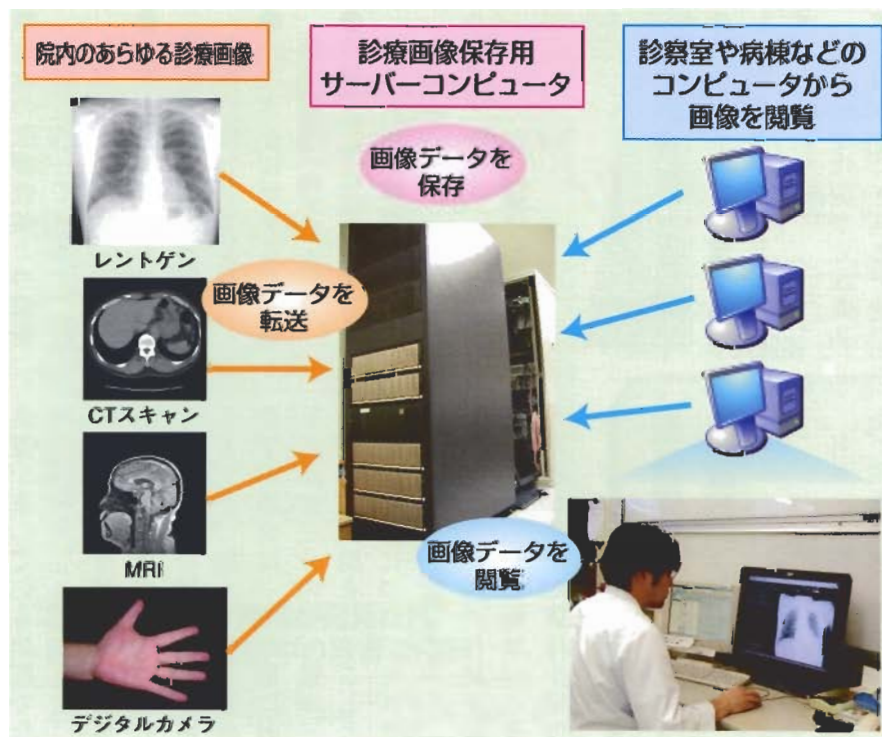
レントゲンやCT検査の画像が検査後すぐにコンピュータから見られるのはもちろんのこと、患者さまの傷口の様子などをデジタルカメラで撮影したものや、他院からいただいた書類などを画像として取り込んで、電子カルテシステムから簡

単に参照できるようにあります。これによりフィルムなどの保存スペースやコストの削減、診断精度や診断スピードの大幅な向上が期待されています。また、これらのデータは、医用画像の世界統一規格である「DICOM(ダイコム)形式」で保存されていますので、他院とのデータ連携などにも対応できるようになっています。

今までこれらの画像を、フィルムや紙に印刷したもので診断していましたが、フィルムに仕上げるまでその画像が見られない、フィルムの保管がかさばるなど、様々な課題も抱えていました。そこで、これらの診療画像をコンピュータ上で一元管理するために導入したのが「画像ファイリングシステム」です。

**電子カルテ化に向けて
画像ファイリング本格稼働**

診療の効率化と広がる可能性



単に参照できるようにあります。これによりフィルムなどの保存スペースやコストの削減、診断精度や診断スピードの大幅な向上が期待されています。また、これらのデータは、医用画像の世界統一規格である「DICOM(ダイコム)形式」で保存されていますので、他院とのデータ連携などにも対応できるようになっています。

【情報管理係】

注目記事：病院のうごき

地域医療支援病院の機能と役割……24時間365日救急体制とともに

特集：話題の広場

地域に根ざした小児健診の取り組み

子供の目を守るために！健診で活躍する「視能訓練士」の活動と実績



お知らせ 病院のうごき

地域医療支援病院を考える

担うべき役割や基準

現在地域医療支援病院は、全国で四十病院ほどが承認されていて、「大学病院（特定機能病院）などに次ぎ、救急医療や高度医療を担える基準」を満たすことにより、県知事より承認される区分制度となっています。

国の方針として、二次医療圏（飯田下伊那地域）を基準に整備して行く構想となつていますが、飯田市立病院では地域の医療機関との連携と協調により、この「地域医療支援病院」の条件整備を目指します。

長野県は全国的にもこの基準による整備が進んでいる県で、現在は三病院が認定されており、地域の中核病院としての機能を発揮し始めています。

飯田下伊那地域内での「医療の完結を目指す」上では、この病院の基準は必要不可欠なものとなります。

《担うべき役割や基準》

- 高度医療に対応できる医師の配置に加え、設備や構造的に、良質な医療が提供できる体制にあること
- 二十四時間救急医療体制が整備されていること

新救命救急センター

院長が長年にわたり、病院の資格取得で最も期待し、要望していたのは「救命救急センター」の取得でした。

本年度厚生労働省の新規事業で、二十四時間体制で重症患者を受け入れる「新救命救急センター」の設置が、要件の緩和により当院でも取得が可能となりました。

この「新救命救急センター」は、従来の高度救命救急センターとは違い、二次医療圏に一カ所ずつ整備が認められ、小規模で五床から十

- 地域の医療機関との機能分担が行われていること（紹介や逆紹介）
- 高度な医療機器や設備・病床などの共同利用ができる状態にあること
- 患者さまに対する相談体制が確保されていること
- 地域で医療に従事する方々との共同研修がなされること

などです。

【地域医療部】

その機能と概要

床程度のベットを擁する新しい型のセンターとなります。

本年度中に国から設置基準が明らかにされる予定ですが、従前の高度医療センターと同様な「三次救急医療」も兼ねたものであり、患者は広範囲熱傷・指肢切断・急性中毒等の特殊疾病患者の受け入れも行うことと思われまます。

二十四時間の診療体制や、医療機器の整備の他、重要な施設としては、自家発電

装置を有している病院でなければ難しいと思われまます。

国の財政措置は、建設事業や医療器械の購入に対して三分の一の補助制度がありますが、加えて運営費が赤字の場合は、その額に対して国が三分の一、県が三分の一の補助を行うこととなり、経営についてもプラスになると思われまます。

飯田・下伊那の住民が安心して暮らせる地域づくりのために早期の取得が期待

されまます。

【庶務課長 尾澤】



拡張された救急室

療養環境を改善していきます

Ⅱ 高松分院Ⅱ

外来・入院患者さまに安全で快適な療養環境で過ごしていただけるよう、段差の解消・杖置き場の設置など細部にわたり、施設面の整備を行つていきます。平成十五年度は、病室の改善を中心に進めます。

飯田市のまちづくりの目標が「木づかいのまちづくり」であり、「人は、緑の



あるやや狭い空間の中で自然に包まれているような環境が一番落ち着く。」と言われていることもあって、病室の壁の一部に杉のむく材を使用したと考えています。患者さまには、改修した部屋で過ごしていただき、その感銘を伺いながら、更に改善を進めます。

【事務課庶務係】

地域医療連携講演会 開催される

3月14日飯田市立病院講義室において、「地域医療連携講演会」が開催されました。講演会は2部構成となっており、第1部では職員向けとして、羽生副院長より「地域医療支援病院」をめぐる医療情勢の動きを学びました。

第2部の講演会では、演題「患者さん1人に2人の主治医」として、静岡市立静岡病院長 柳沼淑夫 先生より、疾病別病診連携の実例を中心にご講演いただきました。医師会の後援もあり、開業医の先生方も多くご参加いただき、大変意義のある講演会でした。



【地域医療部】

視能訓練士参加により 「要精密検査児」の早期発見数が向上 (人)

年度/訓練士参加前後	対象3歳児	健診受診児	要精密検査児
(視能訓練士参加前)			
平成8年度	1,113	1,008	20
平成9年度	1,113	1,008	13
(視能訓練士参加後)			
平成10年度	1,126	964	77
平成11年度	1,012	916	42
平成12年度	1,089	914	46
平成13年度	1,107	965	65

3歳児健診にて異常が発見され 現在当院にて治療中の患者の内訳 (人)

年度/訓練士参加前後	弱視	斜視	睫毛内反	その他	計
(視能訓練士参加前)					
平成8年度	4	0	1	0	5
平成9年度	2	3	1	0	6
(視能訓練士参加後)					
平成10年度	16	9	6	1	32
平成11年度	8	6	1	4	19
平成12年度	8	3	1	0	12
平成13年度	6	4	2	3	15

組織で取り組む 医療事故防止

平成12年4月1日より医療事故防止のための委員会を設立し、活動を開始しました。委員会は院内全職種から選出したリスクマネージャーで構成され、月平均70件の、ヒヤリとした事、ハッとした事の報告があります。事故に結びつきそうな事例が発生した時リスクマネージャーが現場に入って事実確認を行い、各部署に対して指示書(問題の洗い出しと予防策の検討依頼)を出し、現場で対策を検討する方法をとっています。

今後も組織で事故防止に取り組み、安全で安心な医療が行えるように取り組みたいと思います。 【松下 高暁】

話題の広場



特集

地域に根ざし 「子供の目を守る」取り組み

＝3歳児健診に参加する視能訓練士＝

現在3歳児健診には眼科健診が義務付けられており、飯田市のみでなく、阿南町、天龍村、泰阜村の四市町村の健診に視能訓練士が参加しています。

健診では、発達の障害となりうる斜視や弱視を含む様々な疾患の早期発見を目的としています。視力や、両目で対応して物を見る両眼視機能と呼ばれる視覚は、幼児期に急激に発達し6～8歳位までにはほとんどの発達を終了してしまいます。また、この期間内に適切な訓練・治療を行わなければ治療は難しいとされています。

視能訓練士による3歳児健診は受診者全員に屈折検査、視力検査、眼位・眼球運動検査、立体視検査を行うので、より専門的な検査が可能になります。子供の健やかな成長の為に、人間の感覚の80%を占めるといわれる視覚の発達異常を早期に発見し、早期治療につなげていくことが大切です。 【久保田 綾子】



健診の様子



休日時間外でも会計ができるようになります

平成十五年二月一日より、土・日・祝祭日の午前八時三十分から午後五時十五分までの間に受診された際の会計ができるようになります。

四月一日からは、平日休日を問わず、午後五時十五分から午後十時までに受診された際の会計もできるようになります。

午後十時以降につきましては、今まで同様、仮払い（預かり金）となります。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

四月は異動の多い月です
資格変更を忘れずに

ご本人あるいはご家族に退職・就職等をされる方がある場合、保険証の資格もそれに伴い変更となることがあります。特に三月から四月にかけては資格変更が多くあります。

病院に受診をされる際は、初めての方はもちろん、継続受診中の方につきましても、月に一度は必ず保険証・各種資格者証の提示をお願いいたします。また、資格等に変更があった場合も、早めに窓口への提示をお願いいたします。

【医事課】

看護師のキャップ廃止

看護師のユニホームの象徴でもあった、ナースキャップを感染防止のために四月より廃止します。

これにより、今までと違

って、一目で「看護師である」ことがわかりにくくなるかと思いますが、左腕に大きめの「赤枠ラベル」で名前を表示するようにしますのでご理解いただきたいと思います。

【看護部】

お薬何でも相談室

|| 高松分院 ||

高松分院薬剤科「お薬何でも相談室」を開設しています。お薬の疑問・悩み事など、何でもご相談ください。

高松分院でもらった薬だけでなく、他の病院や薬局でもらった薬につきましてもご相談に応じておりますので、お気軽にご利用ください。



シリーズ

患者会 その2

糖尿病患者友の会



鈴木 藤雄

「コスモス会」は当院の糖尿病患者が病気についての知識の普及と向上を図り、会員相互の健康管理と親睦を図る目的で平成元年9月に発足しました。本会は、社団法人日本糖尿病協会並びに長野県支部にも加入し、次の事業を行なっています。

- ① 講演会及び座談会
- ② レクリエーション
- ③ 関東甲信越糖尿病セミナーへの参加
- ④ 役員会・総会

会員の特典として日本糖尿病協会が毎月発行する機関誌「さかえ」と支部が随時発行する機関紙を配布します。

糖尿病は一度かかると治らないといわれています。しかし、管理が良ければその症状を抑えることはできます。病気の性質をよく知り、食事療法と自分にあった運動療法、さらに医師の指示にもとづく薬物療法で現在の症状を進行させないことだと思います。

病院スタッフや医師を信頼し自分の意志を強固にして、毎日をがんばりたいものです。

新任医師の紹介

平成十五年一月～三月



放射線科
やなぎさわ しんじ
柳澤 新
平成13年卒業
平成15年1月1日着任
前勤務病院：信州大学医学部附属病院



眼科
しみず ゆみこ
清水 由美子
平成9年卒業
平成15年3月1日着任
前勤務病院：長野赤十字病院

編集後記

新年度を迎え、新しい職員も加わり、身も心も引き締まる思いのする季節です。のどかな春の風にあわせて、飯田市立病院ニュースNo.9の発行となりました。

地域の医療機関との連携、協調による地域医療支援病院の整備や、飯田市をはじめとする近隣町村の三歳児健診へのコメディカル参加など、飯田市立病院は様々な面で地域との関わりを大切に考えております。

これからも充実した内容の広報誌をお届けできるように頑張っていきたいと思っております。

【編集委員会 前田美央】